

多くの人々が公共交通の良さを知り 利用している社会へ

現 状

- 日常生活での自動車の利用割合が高く、短距離移動でも自動車が多く利用されています。
- 公共交通の利用促進や維持が、行政的な課題にとどまっています。



将 来

- 公共交通の良さが理解され、公共交通をはじめ、さまざまな移動手段が適切に利用されています。
- 日常生活の中で、移動に関する情報を容易に入手できるようになっています。

1 対話による意識の転換

市民意識への継続的な働きかけとともに、大きな機運を創出することによって、公共交通の必要性の理解を深め、利用を促進します。

- ㊦ 市民意識への働きかけにより、交通エコライフを普及促進
- ㊧ 現状の交通問題や将来のあるべき交通行動の可視化と大きな機運の醸成

● 全市域

52

● 全市域

54

2 移動情報の統合・発信

まちと交通に関する多様な情報を統合して提供することで、市民の公共交通による移動機会の増加を図ります。

- ㊦ まちと交通に関する情報の統合と一体的な提供を誘導

● 全市域

57

対話による意識の転換

施策展開の全体方針

☆意識転換の考え方

個人の意識に働きかけるモビリティ・マネジメントを継続的に実施するとともに、カーフリーデーのような社会全体の大きな機運を創り出す取り組みを並行して展開することで、交通エコライフの定着やルール・マナーの浸透を図ります。

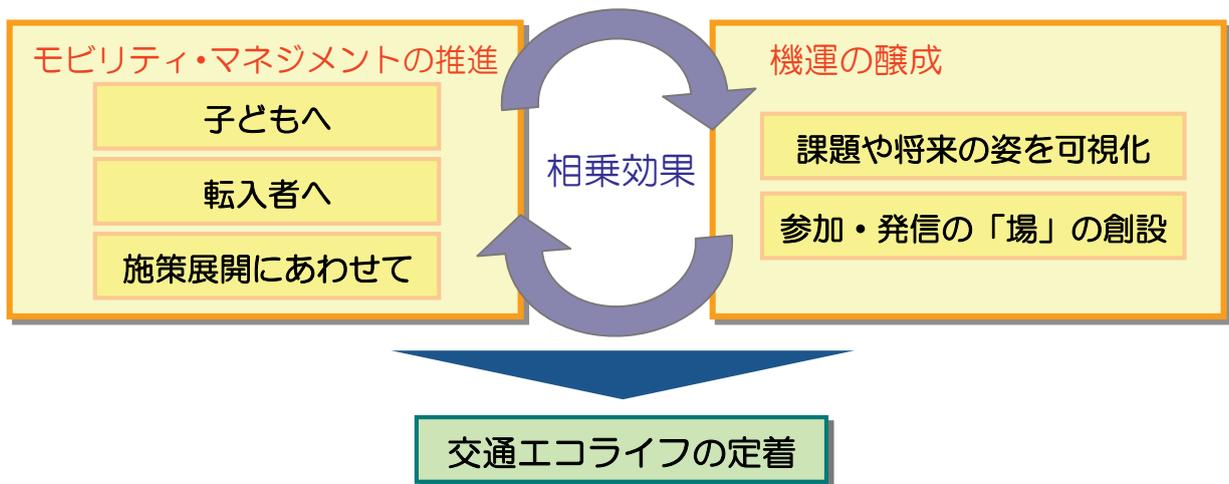


図 4-4-1 意識転換の進め方

(モビリティ・マネジメントの推進)

交通情報にあわせて、健康や安全等、公共交通の利用メリット等に関する情報を提供することで、一人ひとりの意識に働きかけるモビリティ・マネジメントを継続的に実施していきます。さらに、今後は、対象を絞ったモビリティ・マネジメントも実施します。

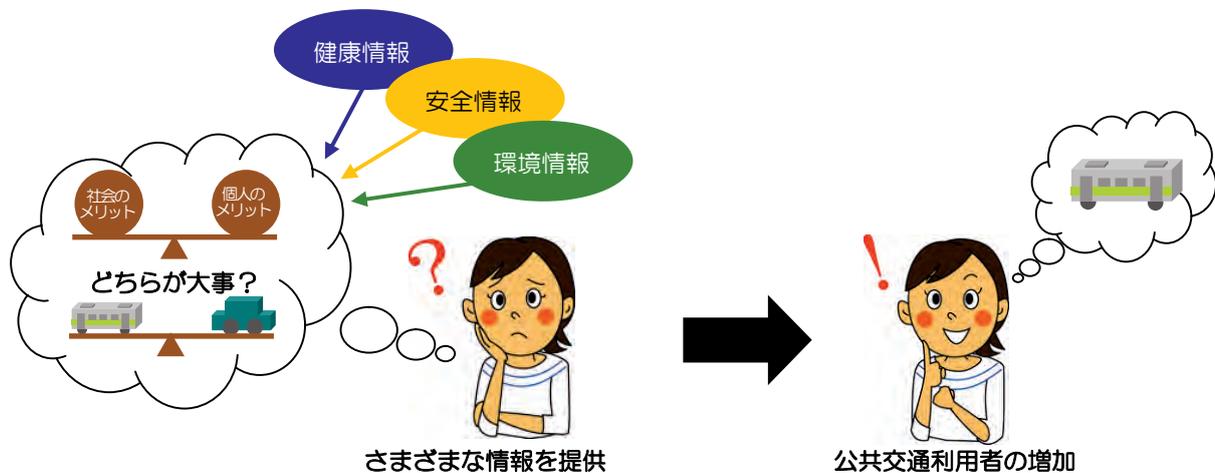
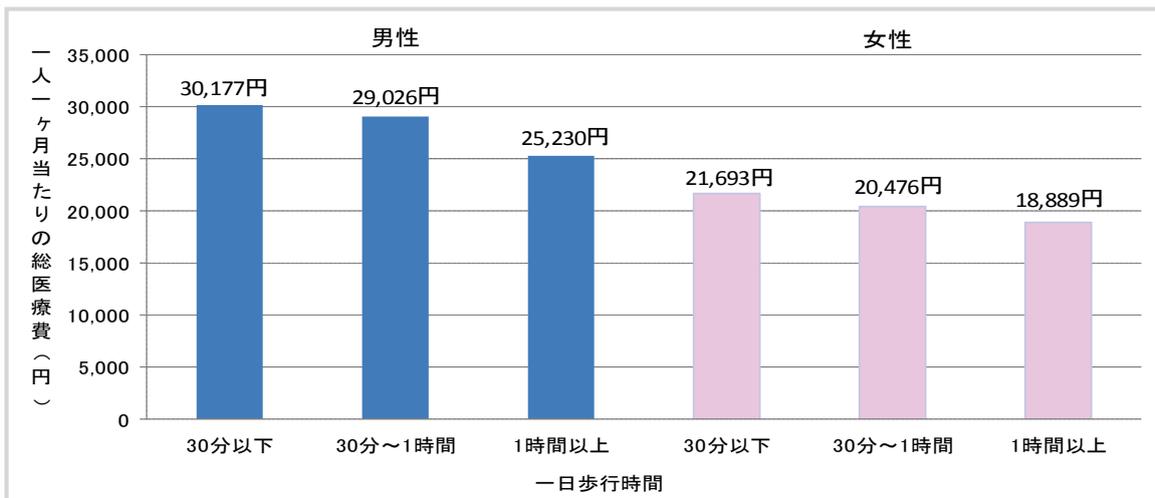


図 4-4-2 市民の意識に働きかけるモビリティ・マネジメント

<参考> 情報提供の例：交通と健康の関係



出典：大崎国保コホート研究 9 年間追跡結果

図 4-4-3 歩行時間と医療費の相関

(機運の醸成)

多くの人々が参加や体験、発言や議論ができるさまざまな場を創り、現状の交通問題や将来の交通行動を示し、確認することで、「まちと交通」に関心を持ってもらい、行動転換に結び付く機運を醸成します。

交通問題を考えてもらう「場づくり」のひとつに「カーフリーデー」があります。発祥地ラ・ロシェル(フランス)で1997年に開催されて以来、2011年現在では世界の2,268の都市で開催されています。2007年以来、日本でも開催する都市が増えています。

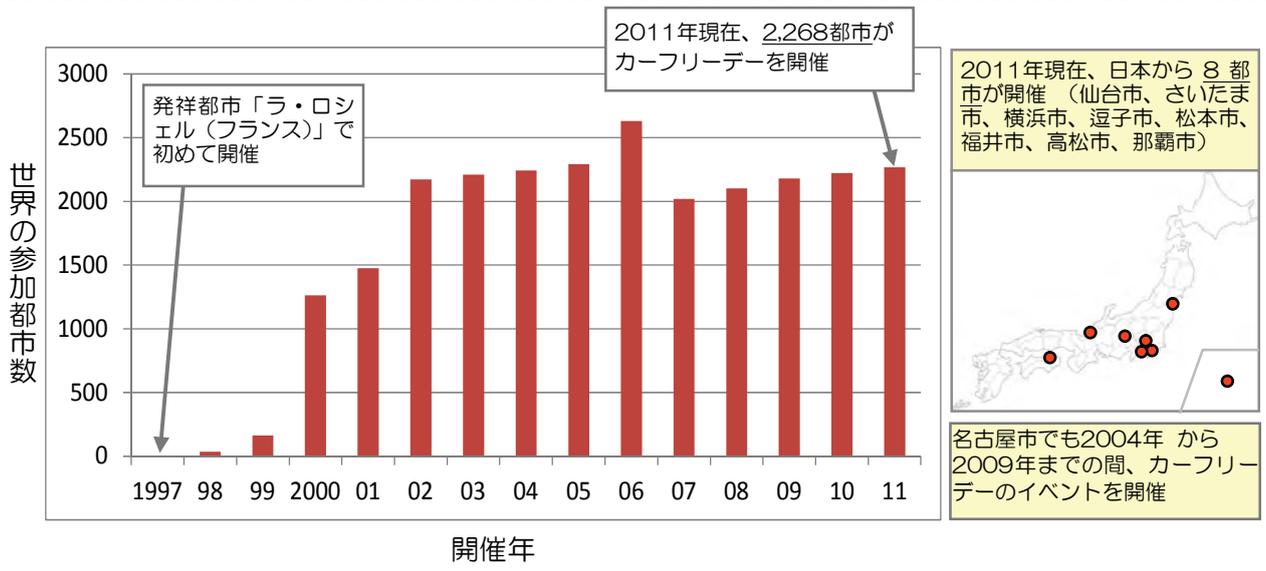


図 4-4-4 カーフリーデー開催状況

〔期待される効果〕

公共交通の必要性を実感し、公共交通を大切にするライフスタイルが市民に浸透します。

具体的な展開内容

施策ア: 市民意識への働きかけにより、交通エコライフを普及促進《全市域》

◆モビリティ・マネジメントの推進

・子どもへの働きかけ

公共交通の役割を学んでもらうことで、公共交通に対して興味を持ってもらうとともに、必要性を理解してもらいます。また、家庭内での対話を促し、家族で公共交通を大切にする意識の共有を図ります。

小学生対象の「バスの乗り方教室」(浜松市)



出典：浜松市 HP

「親子 1DayTrip チャレンジャー」(富士市)



出典：富士市 HP

図 4-4-5 子どもを対象としたモビリティ・マネジメントの例

・転入者へのモビリティ・マネジメント

移動手段が確立していない転入者を対象に、区役所での転入手続きの際に、公共交通の利用促進につながる情報を提供することで、自発的な交通行動の転換を促します。



暮らしの便利帳



公共交通利用促進情報

■提供情報のイメージ

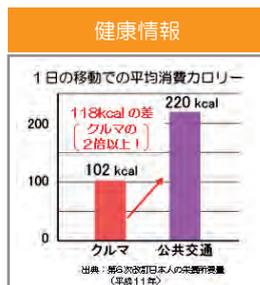
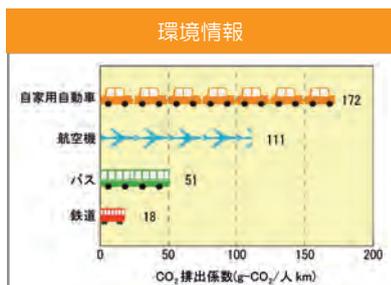


図 4-4-6 転入者へのモビリティ・マネジメントのイメージ

・ 様々な機会を捉えたモビリティ・マネジメント

みちまちづくりのさまざまな施策展開にあわせて、モビリティ・マネジメントを実施していきます。また、バス・鉄道など公共交通の路線や歩いて楽しい場所、自転車のおすすめルートなどを記載したエコ交通マップの作成等、地域と連携したモビリティ・マネジメントについても、引き続き様々な機会を捉えて実施していきます。モビリティ・マネジメントの実施に当たっては、ルール・マナーの浸透もあわせて図っていきます。

道路空間の主役転換、自動車の都心部への集中緩和、移動手段の多様化といった一連の施策にあわせたモビリティ・マネジメントを推進します。

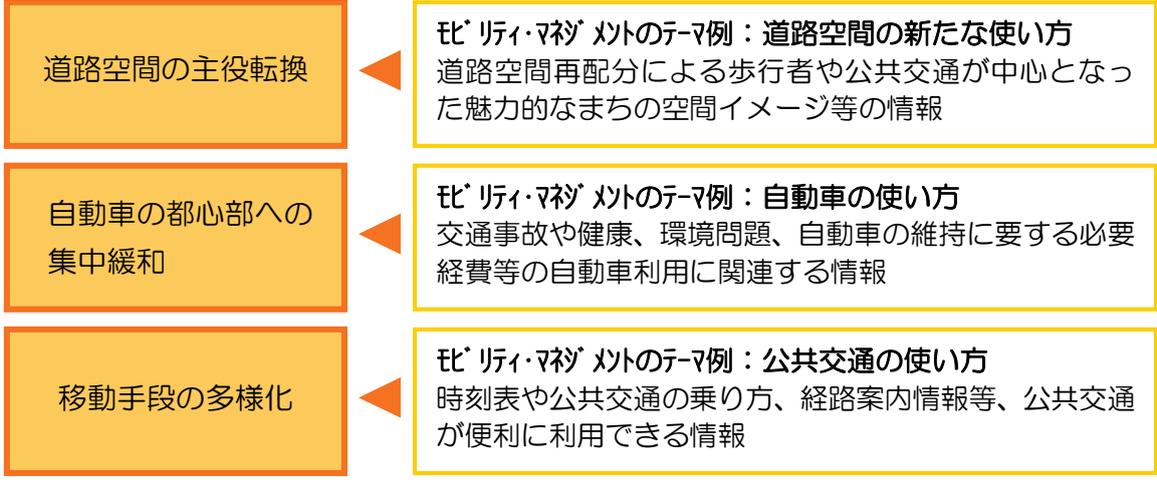


図 4-4-7 施策展開にあわせたモビリティ・マネジメント

<参考> エコ交通マップ

交通行動転換、地域情報発信などを目的として、市民とともに、ワークショップなどを通じてエコ交通マップを作成しました。

市民によるワークショップの取り組み



名古屋市のエコ交通マップ

環境にやさしいライフスタイル(交通エコライフ)を実践するための手助けとして、バスや鉄道のルート、歩いて楽しいところ、自転車のおすすめルートなどを落とし込んだマップ



図 4-4-8 エコ交通マップの作成のイメージ

具体的な展開内容

施策イ:現状の交通問題や将来のあるべき交通行動の可視化と大きな機運の醸成
 <<全市域>>

◆「みちまちづくり」の発信

みちまちウィークを始めとしたさまざまな取り組みにより継続的に実施し、みちまちづくりの実現に向けた機運を醸成します。

みちまちウィーク

「みちまちづくり」の
発信

市民の参加と
意識の共有

新たな交通施策の
検証と実験

2011

栄・大須
10/21~

◆ちよい乗りバス社会実験



◆都心まち歩き隊ワークショップ



2012

ささしま
10/27・28

◆立ち乗り型超小型モビリティ走行体験



◆オープンカフェの設置



2013

中区
(シンポジウム)
10/20
中区・中村
区・西区
(キャラバン)
10/20
その他
(カレッジ)

◆みちまちづくりシンポジウム



◆みちまちキャラバン (アンケート)



◆みちまちキャラバン (お絵かき)



◆みちまちカレッジ (大学生と協働でリーフレット作成)



図 4-4-9 みちまちウィークの実施状況

なごやカーフリーデー2009
久屋大通を通行止めとし、交通と環境について楽しく学べるイベントを実施



せんだいモビリティウィーク&カーフリーデー
オープンカフェ、せんだいコミュニティサイクルPR、東西線親子体験バスツアーなどのイベントを実施



出典：仙台市 HP

図 4-4-10 カーフリーデーの実施例

◆意見表明・議論の「場」の創設

市民やさまざまな主体が自由に意見を述べ、交通に関する新たな提案や議論ができる場を創設します。

意見表明・議論の「場」の創設の実施状況

2013

中区
11/30

◆みちまち市民ミーティング



図 4-4-11 意思表明・議論の「場」の創設状況

移動情報の統合・発信

施策展開の全体方針

☆移動情報の統合・発信の考え方

それぞれに提供されている道路や公共交通等の交通情報を統合するとともに、観光や施設等のまちの情報との連携を誘導し、さまざまな目的にあわせて、多様な移動手段を組み合わせた柔軟な行動選択ができるようにします。

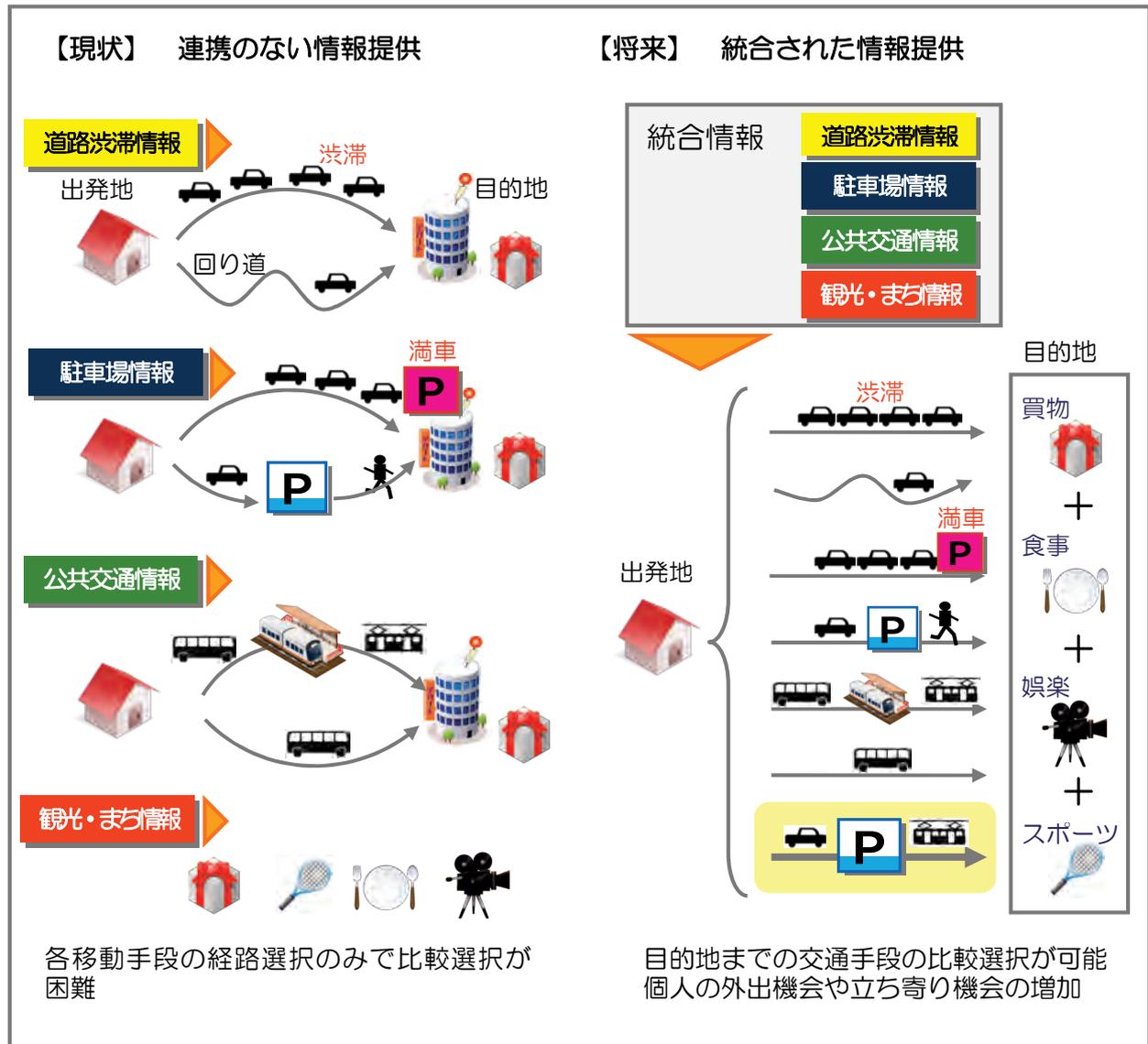


図 4-4-12 移動情報の統合・発信のイメージ

【期待される効果】

- ・目的と状況に合った最適な経路選択、交通手段選択が可能になり、公共交通を使うきっかけとなります。
- ・様々な移動情報が入手できるため、移動のストレスが削減でき、まちを十分に楽しめるようになります。

具体的な展開内容

施策ア:まちと交通に関する情報の統合と一体的な提供を誘導<<全市域>>

◆交通とまちの情報の統合・発信

公共交通や駐車場、渋滞情報等の既にある交通情報から段階的に統合を誘導し、各種の媒体に発信することで、市民や海外からの来訪者も含めたさまざまな人が、移動中でも容易に情報が入手できるようにします。

自宅でPC



まちなかで携帯・スマホ



移動中はカーナビで



駅でデジタルサイネージ



図 4-4-13 統合・発信された情報の取得方法のイメージ